

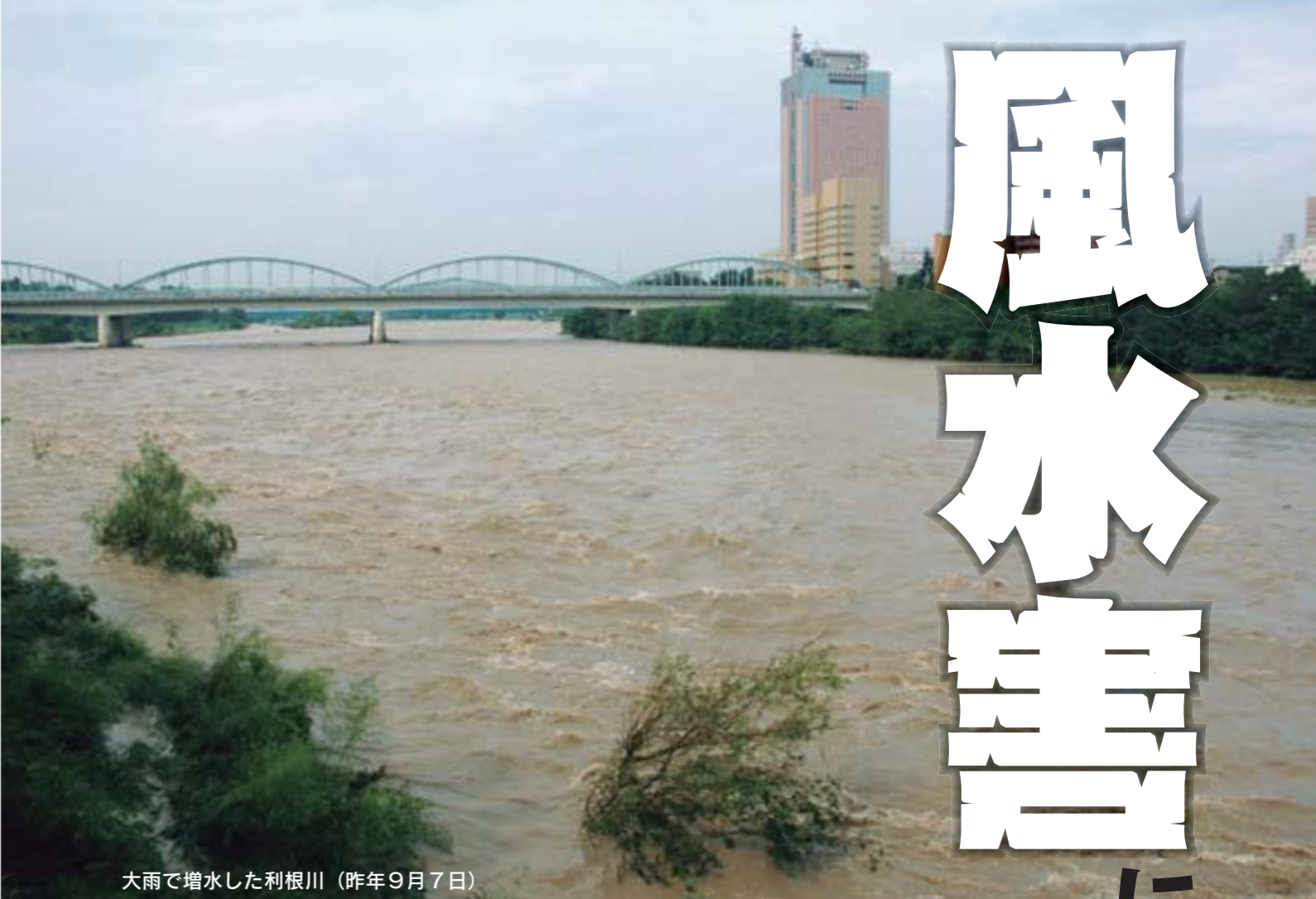
風水害

に備えて事前の対策を

9月は台風や集中豪雨のピークです

大正12年9月1日に起きた関東大震災の悲惨さを伝えその教訓を生かすために、またこの時季に台風による被害が多く発生することから、9月1日は「防災の日」に定められています。これからの季節は、台風や発達した雨雲の影響で大雨が降りやすく、毎年、全国各地で被害が発生しています。被害を最小限に抑えるためには知識と事前の対策が必要です。

問い合わせは
安全安心課 ☎898-5935



大雨で増水した利根川（昨年9月7日）

本市でも過去に多くの災害が

本市は、「水と緑と詩のまち」といわれるように、市内を利根川や広瀬川、桃ノ木川、荒砥川、赤城白川などが流れ、自然の恵みをもたらしています。しかし、古くから水害も多く発生しています。特に昭和22年のカスリン台風では、市域の多くが水没。翌年にはアイオン台風、24

年のキティー台風と、3年続けて台風の被害を受けています。また、昭和56年の台風15号、57年の台風10号、58年の台風18号などが、大きな被害をもたらしました。昭和61年以降は、雷雨による集中豪雨から発生する浸水害が多く見られます。特に平成9年9月の集中豪雨では、1時間の降水量が100mmを超え、400件以上の建物などに被害が発生しました。昨年から今年にかけて、本市への台風による大きな被害はありませんが、注意が

必要です。

災害は地形により大きく左右

台風には、大型で広範囲に被害をもたらす台風、小さくても狭い範囲で甚大な被害をもたらす台風、前線の活動を活性化させて大雨による被害をもたらす台風などさまざまな種類があります。また、最近ではゲリラ雨といわれている局地的な集中豪雨があり、これは予想が非常に困難です。風水害はそれぞれの場所の地形

台風の接近前に早めの備えを

大災害をもたらす台風の多くが9月に襲来しています。これは9月には日本列島に前線が停滞していることが多く、台

風からの湿った南風が前線の活動を活性化させて大雨を降らせることが大きな要因の一つです。

台風や豪雨は、事前の対策次第で被害を最小限に食い止めることができます。台風が遠く離れているからといって油断せず、日ごろから十分な対策を立てておきましょう。

●日ごろの心構えと準備

家の近くの危険場所と避難場所を確認。いざというときのために、非常食や飲料水、懐中電灯、携帯ラジオ、予備の電池などを準備しておきましょう。

●台風が近づいたら

できるだけ外出は控えましょう。瓦や窓などを点検し、商店などで看板がある場合は風で飛ばされないように固定。また、浸水などの恐れがあるときは、家財道具や生活用品を高い所へ移動しておきましょう。

●避難するとき

避難勧告を受けたら、危険を感じなくても速やかに避難を。単独行動は避け、地域の人と協力しましょう。お年寄りや体の不自由な人、病人などがある家庭は特に早めの行動が必要です。また、勧告がなくても、危険と判断したら自主的に避難しましょう。避難するときは、電気やガスなど火の元の始末、戸締まりを確実に。また、行動しやすい服装で、丈夫な運動靴や手袋なども持ちましょう。



◀防災気象情報について▶

気象庁からは、大雨・洪水警報、注意報など身近な気象情報のほかに、緊急地震速報や土砂災害警戒情報などの多様な防災情報が提供されています。市民の皆さんもこれらの情報を有効に活用することで、災害を未然に防ぐことはもちろん、円滑な避難に結び付けてください。

◀主な防災気象情報▶

- 緊急地震速報…最大震度5弱以上の揺れが推定されたときに、震度4以上の強い揺れが予想される地域の人に対して気象庁から発表
 - 土砂災害警戒情報…大雨による土砂災害発生の危険度が高まったときに、市長が災害応急対応を適時適切に行えるように県と気象台が共同して発表
 - 異常天候早期警戒情報…著しい高温や低温など平年から大きくかけ離れた異常天候の発生の可能性が高まった場合に、災害や被害の防止・軽減のために行う早期の警戒呼びかけ
 - 竜巻注意情報…積乱雲の下で激しい突風の発生が予測されるときに、住民に対して注意を呼びかける気象情報で、「雷注意報」発生中に、それを補足する情報として発表
- 防災気象情報については前橋地方気象台（☎231-1404）へ問い合わせるか、気象庁ホームページ <http://www.jma.go.jp/> をご覧ください。